

「人に優しい街 尾道から学び、 沼隈に生かそう！」

本単元で育成する資質・能力

つながる知識 思考力・判断力・表現力 主体性 深める力 共感力

単元について

○ 生徒観

本学年の生徒は、1年生時に「ふるさと沼隈」について調べ探究する学び、視野を広げ「パラグアイと沼隈からの移民の歴史とそれを支えた地元の企業」などを通じて沼隈に関する基礎的な知識をつなげ、広げて学習してきている。さらには、1年生時の「ブドウの袋掛け体験学習」や2年生時の、職場体験学習において労働の意義や働く人々への感謝等について、体験を通じ実感を伴って学び、必要な配慮や心掛け、礼儀・マナーの必要性も学び、自分の進路実現に向けて真剣に考えることができています。

本校として初めて実施した「東京への修学旅行」では、2日目の23区内のグループ別自主研修を互いに思いやりの心を持ちながら計画的にかつ状況に応じて考え、判断して行動化し、その結果に自信を持つことを意識した主体的な行動を見事にやり遂げた。電車に乗った経験もない者が多い中、地下鉄の1日フリーパス券で移動し、スタートしたホテルではない別の到着点のスカイツリーへ時間を守って全員が集合することをやり遂げた。それまで、学年集団として課題点が多く指摘され、自己肯定感が低い傾向があったが、自分たちのやり遂げた行動に自信と誇りを持つようになり、1月の修学旅行を境にリーダー学年への成長意欲が大きく高まった。大都会東京を調べ学び体感することで、小学校から学んできた「ふるさと沼隈」と「首都東京」を比較し、様々な課題を自ら発見、解決に向かうために自分はどうあるべきかを見つめることができています。また、2年生3学期の「福祉体験学習」を通じて、配慮ある行動や設備の充実、活用の必要性を学んできています。

3年生になってからは、隔年実施だった「体育祭」と「文化祭」を毎年行うことになった最初のリーダー学年として、プレッシャーをバネに、9月から5月に実行となった「体育祭」でリーダーとしての自覚ある行動で見事な成功に導くことができた。次の文化祭のミュージカル成功にさらなる意欲を湧き立たせているところである。

修学旅行と体育祭の成功がもたらした自己肯定感は大きいものがある。それが、進路実現に向けた意欲にもつながってきている。実際の入試で面接があるなしに関わらず、全員が校長面接に臨み、中学校3年生までに身に付けておくべき礼儀・マナーを改めて確認し、義務教育9年間で成長してきた自分を自信持って語り、今後の学びへの意欲や将来展望について、今まで成長してきた経緯と身に付けた資質・能力と結び付けて、自分の言葉で表現しようと前向きな姿を見せている。

平成29年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査「生徒質問紙」肯定的回答の割合 本年度の広島県全体(2年生)及び本学年の昨年度と本年度の比較		本年度 県平均	昨年度 (2年生)	本年度 (3年生)	
全般	学校へ行くのは楽しいです。	87.2	92.8	92.2	
課題発見・ 解決学習	課題の設定	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう?」「やってみよう」と思います。	68.4	76.8	92.8
	情報の収集	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり、取材をしたりしています。	39.9	30.4	63.8
	整理分析	授業では、調べたこと等を、図、グラフ、表などにまとめています。	53.1	43.5	71.0
	まとめ	授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	58.2	44.9	63.8
	発表・表現	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように工夫しています。	59.4	49.2	60.9
	実行	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	66.2	62.3	81.2
	振り返り	学習の振り返りをするときは、「どこまで分かったか」「学習の方法で上手くいったことや失敗したこと等の理由」を考えています。	66.1	66.6	79.7
	その他	学習の振り返りをするときは、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」等を考えています。	59.0	56.5	78.3
		普段の生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習のすすめ方を使っています。	72.4	57.9	79.7
		授業では、友だちと話し合う等して、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	77.5	72.4	79.7
	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したり等の体験活動をしています。	56.3	47.8	73.9	
総合	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいます。	67.5	73.9	79.7	

…70%以下の肯定的回答

…県平均以上

「基礎・基本」定着状況調査の「生徒質問紙」の各項目について、昨年度の2年生時に比較して「課題発見・解決」に関する項目の大きな向上が見られる。昨年度の「基礎・基本」の各教科通過率が大きく県平均を下回り、自己肯定感が低く学習意欲も低かった状況から、自己肯定感が増し、自分の成長へ前向きになり学習意欲も高くなってきた状況へと変化したことがうかがえる。ただし、学力の向上傾向は見受けられるが、全国学力・学習状況調査の教科通過率は全国平均を全て下回り、まだまだ結果に結びつく学力の定着には至っていない。また、質問紙の全項目で大きく向上したが、思考力・判断力・表現力には大きな課題があると捉える。表現の工夫をしているつもりでも、条件に応じて資料を総合的に整理・分析して、分かりやすく根拠明確に分かりやすく表現しきる力までは高まっていない。この力を身に付けていくことを重視していきたい。

本校で設定した5つの資質・能力や「時を守り場を清め礼を尽くす」の本校生活信条について意識を高く持っているのがこの学年である。5つの資質・能力の中心にある【主体性】と他をつなぐキーワードとしての「クリティカル・シンキング」を特に強く意識して、全校のリーダーとしての意識を高め、自ら行動する姿で全校及び校区に模範を示そうとする姿を多くみられるようになった。面接での受け答えや自己アピール文などに「主体性」「クリティカル・シンキング」の言葉がよく出てくるようになった。また、「初めての東京修学旅行」や「年に体育祭と文化祭の両方を行う初めてのリーダー学年」をやり遂げたこと等により「クリエイティブ・イノベーション（新たな価値の創造）」が学年の誇りのキーワードにもなっている。

【つながる知識】【思考力・判断力・表現力】【主体性】【深める力】【共感力】の5つの資質・能力を改めて意識し直させ、義務教育9年間の最終段階として、各項目のレベル3への到達を目指させたい。進路実現への取組と合わせて、この単元の学習を通じて、自己の生き方を真剣に考え、「学び続ける力」を大切にす姿勢を持たせたい。成長した自分の姿、自校とその仲間、さらには地域に対する愛着と誇り・自信をしっかりと持たせていきたい。

○ 単元観

【総合的な学習の時間の目標】（新学習指導要領：平成30年度より完全実施）

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

本単元は、平成29年3月に公示され、次年度から完全実施される新学習指導要領の総合的な学習の時間の目標に示された内容を意識して次のような「ねらい」を持っている。

- (1) ふるさと福山・沼隈について学んできたこと、首都東京と比較して課題を見だし改善に向け自己の生き方を見つめてきたこと、福祉体験学習で学んだこと等を総合的に踏まえ、「尾道」の現地学習で学んだことを結び付け、自己の生き方を考える「つながった知識」を習得し、探究的な学びの良さを改めて実感し「学び続ける力」への発展を図る。
- (2) 既存知識と新たに得た情報の整理・分析の中で、比較、分類、関連づけながら、ふるさと福山・沼隈の発展の方向性と自己の生き方について探り、考察し、条件を整理して、根拠を明確に分かりやすく表現できるようにする。
- (3) とともに学び成長してきた仲間思いやり・優しさ・助け合いの心を持って協働し、人を大切にし、主体的に行動する態度や今後の生き方への意欲を養う。

(1)については、既習事項や行事等も含め学び成長してきた自分の知識や技能の関連性を高め、尾道の現地学習を切り口に、「ふるさと沼隈」の今後の発展性と自己の今後の生き方について真剣に考えていくことができるようにしていきたい。本校の資質・能力の【つながる知識】をレベル3「身に付けた知識を地域・社会と結び付け、さらには、自分の将来へいかに活用すべきか捉えている。」に到達させることを目指す。また、探究的な学習の良さを改めて実感することで、今後の学び方・生き方へつなげ、生涯を通じて「学び続ける力」へと結び付けていきたい。

(2)については、体験したこと、テーマに沿って情報収集、整理・分析したことを比較、分類、違いの見いだしの思考ツールを活用させて思考を深める。情報・資料と既存知識を総合的に分析活用して目的に応じて根拠を持って判断し、相手に分かりやすく表現する力を育成していく。【思考力・判断力・表現力】のレベル3「クリティカルに考え、判断し、相手意識を持って分かりやすく表現できる。」ことを目指す。

(3)については、【主体性】「自ら課題を発見、主体的に行動し、その結果に責任を持つことができる。」、【深める力】「先の見通しを持って熟考し、新たな価値の発見・創造に向かうことができる。」、【共感力】「思いやり・優しさ・助け合いの心を持ち、協働し高まり合うことができる。」の各項目のレベル3の育成を目指す。さらには、自校と地域に愛着と誇りを持ち、グローバル化された変化の激しい社会でたくましく生きる力の育成と今後への意欲を高めたい。

この単元の中心となる体験は「尾道現地学習」である。グループごとの「テーマ」をその設定の理由を明確にして決定し、現地調査の場所や内容、行動計画を立て予定表に落とし込ませる。東京の修学旅行や福祉体験学習を通して、普段なかなか経験できない視点から様々なことに気づき学びが深まったことを踏まえて、その学習を発展させる。「①現地の状況を調査することにより、観光客等の様々な訪れる人に対する配慮の工夫がなされているか」「②もっとさらに改善すると良いと思われる点はどのようなことか」「③自分たちの街、沼隈に生かせることはどのようなことか」の3つの視点でテーマに沿って情報収集させる。情報収集は、現地調査や聞き取り調査の手法を使う。現地学習までは、グループ活動を中心とした協働的な学びを中心とする。事後は、各個人でまとめ、発信することを目標に個人思考へと変える。事後の「自分との対話」によって、自ら思考、判断し、分かりやすく根拠を明確に表現する力を高めるとともに、進路を見据えて自分の思いを相手に発信する力や自己の生き方を真剣に考える姿勢を身に付けさせたい。

3年間の自分の成長に自信を持たせ、今後の生き方をしっかり考え、進路実現に本格的に真剣に向かうことを目指してこの単元を設定した。

○指導観

指導にあたっては、各グループで調査したい「テーマ」を設定させる。今までの既習事項と関連付けて設定理由を明確にさせ、単元感の中で述べた①～③の視点を全グループで統一して、現地調査の具体計画を立てさせ、行動計画に従って実際に現地調査で観て調べ、その周りの状況と現地での聞き取り調査等で得た情報を総合的に結び付けて、自分の考えを持たせる。自分の考えを、グループ内で交流し、より確かな考えへと発展させる。

単元導入時のオリエンテーションでは、「尾道から学ぶこと」のパワーポイントで、ねらいと視点を明確にし、障がいを持たれた方への配慮の具体例、外国の方への配慮の例等を紹介する。また、個人で作成する「まとめ・発信」のひな形を示し、文化祭で掲示し広く発信していくことを紹介する。さらには、自分たちの街、沼隈をさらに住みよくするためにどのような工夫をすればよいか、自分の生き方に結び付けて考えていくことを最終目標とすることを示し、単元の見通しを持たせる。

グループ活動でテーマ設定から、現地調査の計画と具体行動予定表を作成する時間をとり、尾道の現地学習の準備を行わせる。

この単元と同時並行して、別単元として進路実現・将来展望の学習も行う。全員の校長面接を中心として義務教育終了時に身に付けておきたい礼儀・マナーについて学び、自分の成長や自己アピールを簡潔に分かりやすく表現することや、将来に向けてさらに成長していきたい希望や展望について自己の興味・適性等と絡めて表現することについて学び、体験学習を重ねる。その単元の学びとの相乗効果もねらっていく。現地での行動の様子や聞き取り調査での礼儀・マナーや相手に的確に表現する力として活用できることにつなげる。また、個人のまとめ・発信での調査した結果と自分の考えを関連付け分かりやすく表現できる力としても発揮させていきたい。

現地学習は、暑い中での行動であり、仲間への思いやり・優しさ・助け合いの心が重要である。探究の視点では、現地の状況を調査する役割分担を明確にして、広い視野と細かな配慮を持って調査に臨ませる。実際に目にした事実を写真やイラストに残し、気づいたこと等を細かくメモさせていく。グループ内での交流も適時入れさせる。訪れる施設の方への計画的な聞き取りや状況に応じた臨機応変な聞き取り調査も効果的に行わせ、必ず記録に残させる。仲間と培ってきた絆の力、3年間で成長してきた自分の力の大きな発揮の場であることを自覚させ、現地学習に臨ませる。

事後は、まとめ・発信として、仲間との対話も適時まじえながら、自分との対話で深めることを重視する。まとめ方例に従って、観る人、聴く人の相手目線を大切に、分かりやすくまとめていくように指導する。また、全体の発表会で互いに評価し合うことや文化祭での展示発表によって保護者や地域の方々への発信することへの見通しを持たせて、完成期日を守らせながらも丁寧に仕上げていかせる。まとめの中に、自己の生き方を見つめ直す視点を必ず入れることを指導し、卒業までの更なる成長とその後の自己選択した進路での発展への希望を持たせていきたい。

単元の目標

- (1) 既習事項や探究的に学んだ経験を生かし、尾道学習で得た新たな情報を整理・分析することによって、習得した知識・技能をより確かにし、そのつながりを強化する。探究的な学びの良さを改めて実感し、生涯にわたって「学び続ける力」へ結びつける。
- (2) 情報収集した内容を、整理・分析、比較・分類・関連づけながら、課題の見いだしを行い、自分の考えを持った根拠を明確にし、相手に分かりやすくまとめ・表現できるようにする。
- (3) 仲間への思いやり・優しさ・助け合いの心を持って協働し、人を大切にする生き方、主体的に学び続け成長していく今後の自己の生き方を真剣に考える。

単元として育てたい資質・能力における評価規準

本校の育てようとする資質・能力の内容			単元として育てたい資質・能力を身につけた子どもの姿
知識	つながる知識	知 「既習事項」とのつながりのある知識 「他教科・領域」とのつながりのある知識 「地域・社会」「将来への活用」とのつながりのある知識	①既習事項と新たに得た情報を整理・分析し、身に付けた知識相互を関連付けるとともに「地域・社会」と結び付けて捉え、さらには「自分の将来」へいかに活用していくべきか捉えている。
スキル	思考力 判断力 表現力	表 課題を正しく受け止め、目的に応じて考え、根拠を基に判断する力 思考・判断に至った過程を振り返り、クリティカルに考える力 自分の考えを相手に納得できるよう、分かりやすく表現する力	①課題に応じ、クリティカルな思考をともなって熟考し、根拠を明確に判断し、相手意識を持って分かりやすく表現できる。
態度・意欲	主体性	主 自ら課題を発見し、よりよく解決しようとする時と場を踏まえ、目的に応じて自ら判断し、行動しようとする	①自ら課題を発見、主体的に行動し、その結果に自信を持つことができる。
倫理観・価値観	深める力	深 「 存む(たたくむ)こと 」「 はっと気づくこと 」 広い視野と細かな配慮を持って物事を捉える力 表面に見えていないものを感じ取り、深く思考を働かせる力 創造的な思考を働かせ、新たな価値を発見・創造しようとする力	①他者意見等により自分の考えを見直し、修正でき、先の見通しを持って熟考し、新たな価値の発見・創造に向かうことができる。
	共感力	共 「 こだまし 」「 うなづくこと 」 他者意見を真摯に聴き、受け止め、相手目線で考える関わり合いの中で、「思いやり・優しさ・助け合いの心」を持って行動する仲間と協働し、ともに高まろうとする	②思いやり・優しさ・助け合いの心を持って人に接し、相手目線で考えることができ、仲間と協働し、高まり合うことができる。

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
<p>グループで設定した「テーマ」に基づき、尾道の現地調査で得た情報と今まで学び成長してきた内容を結び付け、個人でまとめを作成し、ふるさと沼隈のよりよい発展と自分の生き方を盛り込んだ発信をしよう。</p> <p>◎全員の作品を文化祭で展示発表する。 ◎校内発表会において、制限時間内で分かりやすく説明し、学びまとめたこととともに自分の今後の生き方について決意表明する。 まとめに盛り込む内容 ①人に優しい配慮や工夫としての気づき ②さらに改善すると良くなると思う点 ③ふるさと沼隈に生かすと良いと考える点 ④今後の自分の生き方の決意表明</p>	<p>A</p> <p>◎B基準に加え、自己の生き方についての展望が明確であり、学び続ける姿勢が見られる。 ◎B基準に加え、まとめを観る・読む人のためのレイアウトや色の工夫などができ、発表の際の要点を整理して言葉の抑揚などにも相手意識を持った表現工夫ができる。</p>
	<p>B</p> <p>○既習事項と新たに得た情報を整理・分析し、身に付けた知識相互を関連付けるとともに「地域・社会」と結び付けて捉え、さらには「自分の将来」へいかに活用していくべきか捉えている。 ○課題に応じ、クリティカルな思考をともなって熟考し、根拠を明確に判断し、相手意識を持って分かりやすく表現できる。</p>
	<p>C</p> <p>△集めた情報、身に付けた知識の関連が薄い。 △表現する内容について相手意識が不足していたり、根拠が不明確だったりする。</p>

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価				◆単元として育てたい資質・能力における評価規準 【資質・能力】	各教科等との関連
			知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観		
1 2	課題設定	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">「人に優しい街 尾道」から学ぶ「テーマ」を決めよう。</p> <p>◇オリエンテーション ・パワーポイントにより、この単元の活動の流れの概略をつかみ、関心を高め、見通しを持つ。 ◇グループ活動、グループ協議 ・グループの「テーマ」を決定 ・テーマ設定理由を明確にする。</p>			○		<p>[意欲・態度—①] (行動観察, ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会 (地理) 「身近な地域の調査」(2年) ・理科 「人間と環境」(3年) ・家庭科 「生活を豊かにするため」(2年)
2 (補)	情報の収集→整理・分析→課題の再編	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">グループの「テーマ」、調査視点を踏まえ、尾道に関する情報を収集、整理・分析し、「問い」を見だし、その解決のための行動計画を立てよう！</p> <p>◇グループ協議 ・「テーマ」に沿って、3つの調査視点で行動計画を立てる。 ・どのような場所をどのように調査すると効果的かを考える。 ①資料等から情報収集 ②集めた情報を整理・分析(各自) ③グループ交流、改善計画立案 ④調査を充実させるために、「問い」を見だし、新たな情報収集へ入り、仮説を立てる。 (①～④をルーティン化する) ◇各自まとめのレイアウト計画</p>	○		○		<p>[スキル—①] (行動観察, ワークシート)</p> <p>[知識—①] (ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会 (地理) 「身近な地域の調査」(2年) ・数学 「資料の活用」(2年) ・保健体育 「環境と健康」(2年)
3		<p style="border: 1px solid orange; padding: 5px;">自分の既存知識に加え、他者からの情報、新たに得た情報から興味・関心を持ったり、疑問をもったりしたことから、自ら調べてみたい「テーマ」「視点」から具体調査内容と方法を整理し、テーマに沿った「問い」を見いだす。問いに対する仮説を立て、資料等で検証を行い、仮説にある程度根拠を得て、当日の現地での検証でさらに深めていく。その思考、判断に至った経緯などを書き留めておき、分かりやすく表現するための材料とする。</p>						
4 ～ 9	【現地調査】 体験学習	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">「人に優しい街 尾道」で実際に現地調査し、新たな発見、「仮説」の検証をしよう！</p> <p>◇尾道駅出発、千光寺公園着で各グループの行動計画に従って調査活動を実施 調査視点 A:工夫されている点 B:改善するとよい点 C:沼隈に生かせる点 ・「気づいたこと」「考えたこと」を所定のメモ用紙に各自記入 ・必要に応じて写真、イラスト ・休憩も兼ねてグループ内で交流 必要に応じて行動計画を修正 ・協働しながら、思いやり・優しさ・助け合いの心を持ってグループ活動を行う。 ◇調査記録用紙にまとめ直す。</p>			○		<p>[意欲・態度—①] (行動観察)</p> <p>[価値観・倫理観—②] (行動観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会 「身近な地域の調査」(2年) ・国語 「いにしへの心を訪ねる」(2年) ・道徳 内容項目B—(7) 「礼儀」 内容項目B—(8) 「友情、信頼」 内容項目B—(6) 「思いやり、感謝」 内容項目C—(18) 「国際理解、国際貢献」 ・外国語 「既習事項全般」
10 11	創造・まとめ・表現	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">グループの「テーマ」、「調査内容」に基づき、まとめを作成しよう！</p> <p>◇グループで協働しながら、個人で「まとめ」を作成する。 ・仮説から検証の経緯等を盛り込んで工夫と改善点を明確に区別、その根拠を明確にする。 ・沼隈に生かす点については、第三者的にならず、その一員として能動的な決意を込めて提言 ・インパクトを与えるレイアウト、写真、イラスト等を工夫 ・感想、生き方の決意表明。 ◇各自で発表会の発表原稿作成</p>			○		<p>[スキル—①] (まとめの内容)</p> <p>[価値観・倫理観—①] (行動観察, まとめの内容)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 「論理を捉えて」(2年) 「表現を見つめて」(2年) ・道徳 内容項目C—(16) 「郷土を愛する態度」
12 13 14	【グループ内発表→全体発表】 実行・振り返り	<p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">自分の学びをアピールし、他の発表からさらに学びを深めよう！</p> <p>◇グループ内で発表し合い、各グループの代表を決定する。 ◇代表者による全体発表 ・最優秀賞、優秀賞を表彰 □学びを深める ・自分の学びをアピールする。 ・他の発表を聴き、自分の内容と比較し、学びを深める。 ◇「振り返りシート」にこの単元の学びを整理し、振り返る。</p>			○		<p>[知識—①] (まとめ内容, 決意表明)</p> <p>[スキル—①] (行動観察, 発表内容)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳 内容項目C—(12) 「社会参画、公共の精神」 内容項目D—(22) 「よりよく生きる喜び」
		<p style="border: 1px solid orange; padding: 5px;">今まで学んだ内容、出会った人・情報について振り返らせる。「どのように深まり、広がってきたか」から探究的な学び、学び続けることの良さを実感させる。自己の生き方を見つめた決意表明を自分と地域の将来展望を持って書かせる。</p>						

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・1,2年生で経験した探究的な学びによって身に付けたスキルや能力を活用し、さらに高める。
- ・情報収集, 整理・分析, 課題の見直しを行う。

情報の収集

整理・分析

(2) 準備物

ワークシート, 「大好き! 福山~ふるさと学習~」(下巻), 「尾道観光案内地図」, 尾道パンフレット, 各グループで準備した資料(図書資料等)

課題の再編

(3) 学習展開(2限目/14)

	学 習 活 動	指導上の留意点(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループが設定した「テーマ」と「テーマ設定の理由」を全体で交流する。 ・互いのよさを評価し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇グループの「テーマ」や「テーマ設定の理由」について, 互いに評価の声を挙げさせる。 ◇前学年までの探究的に学んだ流れを簡単に振り返り, 成長してきた姿を簡潔に紹介する。 	
<p>【ねらい】今まで学んだ探究的な学びで身に付けた力を「尾道の学び」に生かし, さらに探究的な学びをレベルアップさせ, 行動計画を目的意識のある充実した内容にしていこう。</p>			
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ○調査視点と探究的な学びの流れを確認する。 調査視点 A: 工夫されている点 B: 改善するとよい点 C: 沼隈に生かせる点 ○グループ内で, 「テーマ」に沿った探究を進めていくために, 尾道で訪れていくべきか協議し, 概略のコース案を決める。 ○訪れる場所, 通る道筋など各自で情報収集する役割分担をする。 ○各自で流れに準じて, 探究活動を進めていく。 ・順次, グループ内で交流・協議 ・気づきや判明したことをワークシートに書き込む。 ○仮説検証, 自分の考えの根拠をある程度明確にできたら, ・グループでコースを見直ししながら「新たな問い」を見いだす。 ・さらに, 探究活動を進める。 ○探究活動をスパイラルに繰り返しながら, 現地で実際に調査すべき内容について整理する。 ○各自で整理した内容を突き合わせ, 実際の行動計画をより充実させる。 ・どのようなことを どのように調査するか戦術を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査視点A~Cを黒板に大きく掲示する。 ◇探究的な学びの簡単なルーティンを模造紙掲示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まず, 「テーマ」と探究の「視点」を明確にする。 第1段階の「問い」に対する仮説を立てる。 次に, ①目的意識を持って, 「情報を収集」 ②集めた情報を, 「整理・分析」 「比較・分類・関連付け, 違いの見直し」 仮説の「検証」と「根拠」ある自分の考え ③「広める」, 「深める」の観点で 「新たな問い」を見いだす。 (①~③の流れをルーティン化して探究)</p> </div> ◆グループ内で調べる作業をする者がごく一部にならないように机間指導し, 自ら調べて自分の考えを持てる意義を指導する。 ◇「別の視点等から「仮説」を検証してみると, 新たな気づき, 新たな価値の発見につながる可能性があり, 自分たちでクリエイティブ・イノベーション(新たな価値の創造)を成し遂げられるかも知れない。」と促し, 意欲を高める。 ◇比較, 分類, 違いの見直しの思考ツールを使わせ, 「仮説」の整合性を検討させる。この際に, グループ内が活発な議論から, 各自黙って「うーん」となる瞬間があることが「自分との対話」で「深い学び」であることを踏まえ, 評価する。 ◇行動計画の練り直しの段階に至ったら, 「意見交流の対話」から「自分との対話」を通じて, 「建設的対話」「戦略的対話」へと変わっており, それが課題解決に向かっていることだと評価する。 	<p>〔スキル①〕 課題に応じ, クリティカルな思考をともなって熟考し, 根拠を明確に判断し, 相手意識を持って分かりやすく表現できる。 (行動観察, ワークシート)</p>
振り返り (5分)	<ul style="list-style-type: none"> [グループ協議] ○現段階の行動計画を確認し, 次時でさらに深める方向性を明確にする。 [振り返り] ○本時の探究活動を振り返り, 次時以降への自分としての見直しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「仮説」の検証を繰り返し, 深めていったこの活動は, 今までの探究活動で身に付けたスキルであり, 当たり前のようにできる力が身に付いてきたことを評価する。 ◇自分との対話も含め, 目的のある対話, その質を高めることが, レベルアップへつながる発展方向。 	
<p>【振り返り】 今まで身に付けてきた探究活動のスキルを当たり前のように使いこなせ, 深めることができた。仲間との対話の目的や質もどんどん向上し, 次の時間の見直しもついた。</p>			